# 歌仙『分葱かな』の巻

平成十九年三月十六日　起首
四月十七日　満尾

鈴木真奈　捌

発句　半角のリズムで刻む分葱かな　茉莉花
脇　都市空間を軽やかに蝶　真奈
第三　麗らかにマラソン選手集ひ来て　丹仙
四　胸の絵柄は五十三次　蘇生
五　山際にまるくて赤き月のぼる　ぽぽな
六　小舟を繋ぐ秋の湖　茉莉花

ウ

七　木の実降るピカレスク・ロマン読み耽り　真奈
八　我は白萩歌くらべせむ　丹仙
九　いにしへの采女みやびに貝おほひ　蘇生
十　夜明けを告げる鳥の声する　ぽぽな
十一　靴紐を堅めに結び始発駅　茉莉花
十二　都に薫風を！勝手連です　真奈
十三　月読みの使者は仮面のバイクにて　丹仙
十四　ぐるり遅れの時差は十六　蘇生
十五　珈琲を頼む英語のたどたどし　ぽぽな
十六　ＢＧＭはピアソラがいい　茉莉花
十七　微睡みて願ひし花の下のこと　蘇生
十八　西に向かひて蛙眼を閉づ　丹仙

ナオ

一　大海をひねもす飛んで日は永き　蘇生
二　地球やつぱり丸かつたのね　ぽぽな
三　待ち合わせすれ違ってるターミナル　茉莉花
四　アポもとらずに名刺無頼派　真奈
五　空っ風楊枝に受けて飄々と　丹仙
六　今昔冬の青べかの沖　蘇生
七　下降する間際のジェットコースター　ぽぽな
八　言ってしまはうおまへが好きだと　茉莉花
九　一身はやがてひとつの声となり　真奈
十　涙拭ひてかこつ坊さん　丹仙
十一　ふたたびの益荒男を待つ月天心　蘇生
十二　メジャーリーグのマウンドに露　ぽぽな

ナウ

一　酒蔵で音楽きかす古酒新酒　茉莉花
二　座敷わらしがそっと覗いて　真奈
三　兄さんの鞄のなかの宝物　丹仙
四　遠つ国から万事朗報　蘇生
五　大いなる橋よ架かれと花の世に　真奈
六　春の光の芳しいこと　ぽぽな